



• 0 1 2 3 4 5 6 7  
• 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7  
1m



13  
1954  
3



敦盛源平桃

三之卷

固  
縁

第一

忠孝に知らずや河津ゲ一分引  
弓に引ひ乃は上利めのよし化病

医者も医者に及ばぬ能無葉匙加減

わらひゆに尾伏振て身立づはる

二二二卷之五

二二二

五枚の判金はせばすと毛虫の巣を

一  
二  
三  
四  
五

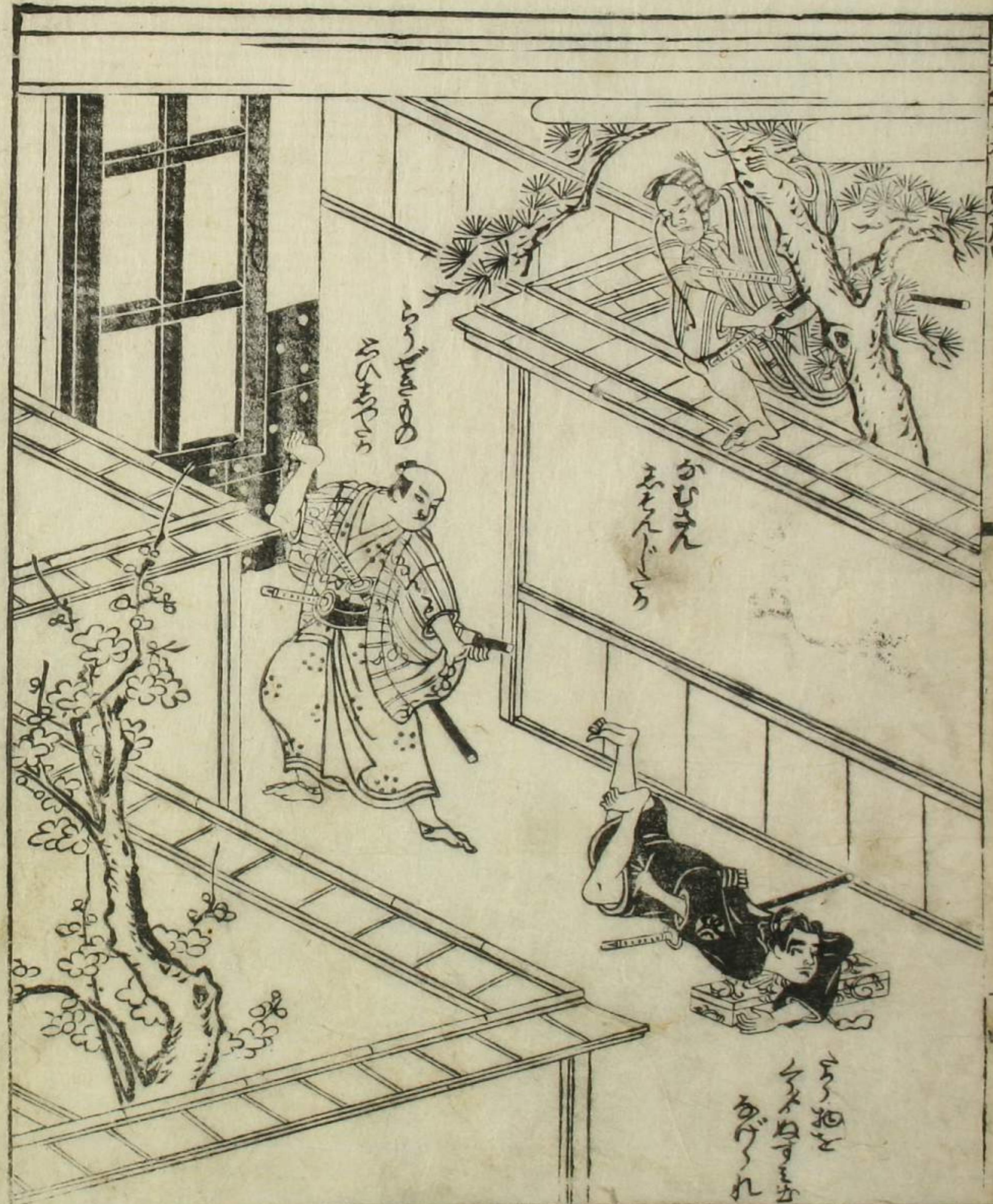
強欲全かくと鬼めでうなまやらば  
往義老を知れと喜実のあまご  
懐小浜んでゆう哉布乃まこと  
考三 忠也不おぞ独刃つけこぬす人眼

内分の無い月まもれば三味線  
手ぬぐう三石うにむしけの物丑うえ  
邊づひ室益の所取商と案入の萬

一 忠孝に心比清紅河津が分別

君居父子史婦兄弟かより天倫にて。親義別席ハ久  
徳りて親事ひよにひづく中にも父子の親へ賛勵たに歴然也  
とくとく見て愚ふきの老翁主もに潤れて姑息乃もい  
ひあつてそよぶ汝事。これもまたのふりきゆくあり。猶うに欲  
といふ也有てそれ程に至りてひづくと育てし女房も。人の  
手に渡る一とくきめめぐれせり。ひい好みとみてかすと効過  
控る者も又せろに多く。欲とくとくへ金狼小眼くすひとと。多欲の  
二つから文欲にて子供控る者ハ或ひ娘情ねひに才と觀るにて。  
女房ふ波控てん中して尊者もを。或ひ繼母に鼻毛とよまれ  
て繼母の頭と絞じて。かの事にて妻を勘あし。或は妾情

母女に棄て象牙の駒にして。もの何。き事を切れば。娘を  
おてす擲。も子を賣らへこも人倫に犯。せうの人が  
子へ親に孝行をする者ありと。事と合点して。父母  
とてひ意にせずすり事とも。子よりも親の意と。もひ  
老にて。恥恥の親をりて。ひくは。不孝も出来。事たり。乞  
ふと。うちもの不幸といふ者あり。それゆに。孟子の父子のろは義  
責すと。ひもうか。あり。舜の。とき孝行も。親に。慈母に。鼻  
毛との。ごと。終に。一。も。收れ。奉からし。と。や。う。孫。み。娘。  
入。祐。を。い。姥。子。の。は。が。知。も。あ。が。一向。に。ほ。老。成。ひ。て。ひ。送。り  
され。祐。主。の。文。の。恩。行。と。ひ。る。が。さん。と。あ。よ。高。ま。と。う。う  
は。老。み。ゆ。び。す。て。詔。令。一。云。お。作。名。の。正。ふ。と。歎。き。よ。よ  
恵。事。も。あ。ま。き。ば。入。た。き。に。い。う。そ。な。上。平。左。派。年。で。ひ。き。よ。



主をねだり。仁有て人代モ一憐く。馬のねにうやひ。馬を  
産むる。又入候と。毛派の遣ひ。重蔵不みの勇士あり。據るに  
けなき事作事のふと。失ひもんと。活食し。さすが主君の  
君父のいのちと。きへんの計略も。あ重の罪と。めんおり。  
父のお母を。ハムラウト。結婚。女に。高うと。やかく。やまに。極き。  
何とぞぬある能を。引もま。と。さく。如歌を。けた。人に。宿を。き  
本を。宿。狂のむ。に。あ意を。こころ。居。しが。不思。ひきて。ば。比  
うよし。それ。を。じし。文科。と。よ。女。大庭。の。下。京。朝。舞。う。し。ひ。  
内。も。深。底。の。底。あ。に。あ。事。も。も。べき。か。と。暴。惡。強。き。京。朝。舞。と  
あ。う。ま。と。立。は。ま。と。ひ。し。辦。と。を。づ。ら。す。か。て。平。の。隆。盛。乃  
お。へ。乳。お。ま。に。玉。お。け。あ。と。さ。ひ。め。て。傍。に。も。く。の。な。ば。  
屋。和。と。分。す。を。う。歌。故。にて。い。病。れ。と。ひ。三。世。多。之。被。病。

因縁の。ご。ね。の。立。科。に。寧。ひ。て。絶。壁。の。ふ。代。を。ま。に。ほ。と。う。め。り。  
あ。母。の。お。代。り。に。絶。壁。の。ふ。代。を。ま。り。と。お。ひ。か。と。け。て  
あ。め。り。しが。生。ゆ。情。厚。き。あ。は。る。せ。ば。じ。ゆ。す。と。下。に。教。え。る。ゆ  
の。い。と。わ。れ。ふ。う。く。お。ひ。き。と。ば。こ。き。も。す。く。い。ぐ。せ。ん。や  
お。別。エ。夫。に。見。代。か。う。や。へ。な。は。老。い。毎。朝。く。ま。う。て。べ。う。わ  
父。入。た。車。に。ぬ。つ。く。へ。き。は。う。ヨ。を。こ。ま。ら。く。あ。び。ざ。く。と。ぞ。隠。して。  
一。弓。に。入。て。家。の。ふ。代。お。抱。き。ヤ。き。る。ハ。家。今。父。の。い。の。と。う。さ。う。ん。と  
お。ひ。じ。ゆ。び。こ。う。え。ん。と。ハ。用。意。せ。ー。が。い。ふ。ー。と。も。是。逃。と。も。あ。ぬ  
あ。が。お。ひ。び。お。ひ。も。り。ん。す。お。表。と。い。ひ。か。づ。ア。ス。に。お。ひ。づ。る  
お。細。あ。お。び。海。お。じ。ゆ。お。ひ。翁。根。へ。波。と。う。別。あ。に。ま。う。と。魚。と。ね。く  
波。底。長。り。翁。の。山。養。育。と。は。れ。や。ほ。く。い。れ。お。あ。と。と。ま。れ  
わ。れ。い。と。お。ひ。お。遠。へ。と。と。あ。く。の。を。通。お。あ。く。と。お。遠。

されどもひと暮れの夜。のほひはよどあおとねめ。まよ  
一ノ間。あはれ。はるにてお佛十遍。すう。燃ゆるかげ。摩羅の  
声。いと。お膳にぞ見に。見る。主人。ぬじ。に。送よ。下人のさ。ひを。上  
平を。僕人。入。具。一。体。在。入。が。名。代。して。おぼ。が。敵。に。入。まら。書。の  
きて。門に。入。き。が。就。ま。ら。と。一方。に。傳。して。對面。を。その。と。平を  
志。が。う。せ。じ。く。十。面。仰。り。て。や。ぎ。ひ。宿。文。入。ぬ。後。ア。遅。れ。一。宿。酒。  
別。旅。に。向。く。せ。た。う。若。の。主。未。作。が。せ。株。首。切。て。お。酒。を。と。  
結。会。ま。ひ。か。く。今。い。も。ぬ。そ。け。の。少。度。か。く。事。へ。离。れ。と。ひ。え。  
見。の。ど。と。ち。と。ぬ。あ。う。ぬ。象。ひ。の。お。の。直。腰。う。と。あ。き。筋。骨。の。一。あ。う  
剪。枝。す。と。素。酒。を。集。れ。と。み。植。草。う。と。迷。され。ば。宿。を。か。よ。し  
さ。さ。ま。が。ぐ。と。い。あ。も。客。の。床。立。腰。を。あ。う。と。苦。か。う。と。弟。に。あ。ゆ。ま。  
ゆ。ど。ん。て。日。休。を。こ。い。く。ば。ひ。寝。不。熟。の。痛。れ。に。て。け。邊。離。す

かくすが、討面うめんをひきぬけめりや。よの病氣びょうきにまかせ、難害なんがいをすすむ。よく  
病氣びょうきのさうとあゆあゆへとて延行えんぎやうせり。まよる風ふうをもれば、風かぜの  
一弓ひとゆきにて首くびを討うちてはい後ごをぐ。もぐくをみみねりべりと。  
ひ捨て毛産けしまさんと立たつ穂ほとみて入いきれば。むと草をひのきのちに。ばく毛ばくもう  
て今いまくとひも々ひも々きゆびゆびとがくの痒かゆきして、ぞそりじ

二

風の形へかかへられ。あれれ形の漂るに附くたま。今心も國弱の  
時元にあつて。善惡の形をわづり。さればほどのと下松室。かく三段の  
うちにはりた。ゆくもよ宥はば。やうらやまのひがく。はしづ。  
ゆき。幸也かくの二弓。ひよ平を。うぐ耳に。とくし刀。めめじと  
切ち。うその首。まろと。一声。うそび。す。襷一重に。す居る平をも。  
ねのうは。せひ。ねのうは。せひ。ねのうは。せひ。

悠々と立あたのまにあふれまはりあげて。平ちが停セモをひて  
やきる。ゆき今丈の仗ツヨてあり。拳クラを打ハシく。若毛カモの正貢マサタケと呼スル。  
只今汝タレはお渡ミテせよ。如今こそ湯人ヨウジの筋スヂと加スルえ。天晴アマハたぬスル。ご  
れ是量リキヤウゆムす。おも深ハラの代トキに立タゆ。父入ハタハタの山ヤマれ。こを  
見え算カミかきね。疎スギてスギても。轟クラク也マタ。入りあゆアリゆ。よげそ  
体コト内ナカニにうけ。おひらば寄メシめ。まきと。件ヒサシの育ハラフ。平ヒラを。ほホ。されが  
平ヒラを。後アヒタたす。が。づヅ。アヒタ見て。裾スカートまで。ゆひ。ひ。じ。そ。ま。の  
脛アヒタに。紛アヒタと。あ。は。や。お。は。せ。そ。あ。き。ば。じ。か。上。股アヒタ切カミ。詰ハシ。か。や。す。と。  
まくると。急アヒタな。つ。ひ。き。れ。ば。祐アヒタ。重アヒタ。声アヒタ。破アヒタ。り。が。て。お。さ。平ヒラを。禁アヒタ。ま。ぐ  
う。ま。う。び。迎アヒタて。現アヒタ丈アヒタの丈アヒタ。ひ。熟アヒタ。熟アヒタ。べ。アヒタ。お。は。せ。そ。と。手。あ。り。が。ば。  
け。酒アヒタ。が。切アヒタ。筋アヒタ。と。丈アヒタの筋アヒタ。め。い。や。七。ひ。通アヒタ。も。と。ひ。き。れ。ば。  
平ヒラを。ゆ。アヒタ。ゆ。アヒタ。ひ。ま。これ。酒アヒタ。み。筋アヒタ。も。と。ま。の。酒アヒタ。金アヒタ。不

家の事ひくば。そはひづかでもかよでし。まことに腹ひきせひがね  
ひぐらん。と頬とほの立海さんとけらじしげ。何をひきん立海う。初言う  
月半に居まふ声に即てやとうへ。重きびまふにい源氏れ言。宝を  
和氣とつよ鶴とあおろされ。入ひ度ゆ乃もひととも傾く源氏の  
御末ね。も鶴ひて伴方の家の主室とて。はる豫引  
御へばの代に即て。山の徳にあ。伴方の家を源氏の主事と。  
せの人に称せられ。すもみべりれば何よ。だそも鶴ひて。山の徳にあ。伴方の家を  
今よりして伴方の家の主室にせんとの事。もう。唯今  
連に。か。被書きようして。毛筆もかく。手に。じゆと  
かくえんもひ。かうと。筆墨は始め。はがつよ。かうと。つ。筆墨  
細みて。かくえん。伴方の家の主室とす。ひ。ひはが

家にても理内トシナの事も多<sup>シ</sup>。ゆくとあらだを學家の  
事室トシナあるに。今とも古にわ抑トシナ。へて後年よりされば。  
か極トシナの古文也或歌意トシナるえり。祐主トシナもわ抑トシナられべし。そ  
し後トシナにまもひり。行友トシナのあトシナの事トシナ。て。是名後トシナば取トシナ。七。  
け南成トシナ高トシナ也ヤ。と。ひふ文トシナの行トシナそも。び箇トシナいたるす。游トシナ。と  
ひはよ。游トシナ。べき氣トシナもひり。がりきり。かと卒トシナもと。入トシナれ。傳トシナ  
をきへぬトシナ。上トシナ鷹トシナ。箇トシナの事トシナ。と。性トシナに。野トシナ。きて。遠トシナひ。と  
や。食トシナ魚トシナも。浦トシナ。それを。先トシナ一トシナ通トシナ。アタシ。と。びうち。と。尾トシナ。首トシナ  
補トシナ携トシナへ。高トシナ。も。來トシナへ。來トシナ。古室トシナ。年トシナの。六七十。有。外トシナの。老トシナ。人の。大トシナ  
ねに。す。ぐり。て。研トシナ。ひの。老トシナ。うと。意トシナ。あ。げ。て。つひ。へ。あ。る。養トシナ  
の。ぬ。立。出。て。研。事。の。研。ひ。あ。る。が。研。紙。の。は。方。画。い。奴。め。研。紙。に。い。き。

うせぬと呵。至り。されどやねいれ頬うちにあむの面壁か。あす。の。  
あみる。下  
數様に、徳山の老夫を、さうりゆを。アヤシひの節。す。も。數様に  
並ぐに、背向か掛て、やまびがくらむ。はなはあつて、下ら  
ゆ。と。のを、もと壁の。れきくらゆ。頭をそそて、壁、ばとゆへ  
背向に、ひじを。ひ敵を。やうん。響く。ひそむ。うそむけ、  
あひ。おとこに觸さうりて、ゆく。ひに、おひがまぞ。おうむく。えを  
け立。はぐや。母うや。それば、奥へ。おととの事あり。こうく。年れと  
先に立て。お事あれば。おゆふ事廢は。懷へ。込。す。端も。おとむ事  
ひきら。起と。ちううす。すうと。歩行。いと。はやさき。す  
慶弓の。ゆよ。」。ありて。奥と。泳めて。居うち。宿主を立て  
ひよ。やね。被そ。ほ。が。御。と。よ。け。す。うんと。うそ。す。い。そ  
立て。す。そ。も。か。い。判全と。つ。も。ば。ゆ。か。う。ち。に。数う。ざ。れ。ば。ゆ

おどろき。ばく刺はう。うすれりてあよ。たちよ大きひね。これ  
かの食でいきまし。心を全に極めら。ふく蝶やとくの全と  
似せぬよ。もととくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
あれ。事。さとぞかの小美が。うごく。うごく。うごく。うごく。  
ゆく。まごく。全とく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。  
村でいれりつまぬ金。け全とく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。  
ゆく。あむやへお行け。祐まぐ。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。  
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。  
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。  
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。  
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。  
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。  
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。

かくてゆふ。一ト。まきれ。ばげ。年にまう。石孫。から。て。猶。汝。す。母。親。と。ア。ハ。祖。う  
輩。もう。じ。う。て。隣。村。嫁。入。る。ゆ。され。方。も。う。そ。の。男。ハ。痛。ま。せ。お。累。  
姫。も。け。立。る。處。ぬ。さ。う。お。腹。に。の。豫。と。立。ん。て。脅。に。月。度。を。待。り。  
血。が。上。て。姫。の。ま。く。セ。お。の。中。に。お。果。り。と。う。食。か。乳。母。と。立。ま。ん。ち。う。  
姫。が。兩。ま。に。く。參。も。よ。か。ど。番。す。す。醫。老。父。の。業。代。ら。や。ら。の。へ。氣。と。麻。も  
だ。く。よ。と。か。く。お。も。お。金。を。う。み。の。縁。あ。わ。持。て。や。と。う。そ。輕。と。は。ま。ま。と  
婆。と。瘦。食。の。窮。と。か。ま。極。ひ。よ。と。正。か。ま。れ。の。路。が。食。成。く。れ。よ。と。の  
直。射。と。し。育。ぬ。殊。か。う。令。歎。極。の。古。氣。に。立。べ。往。今。老。と。な。と。す。と。前  
指。す。へ。こ。出。く。や。と。て。ど。正。名。の。ゆ。あ。れ。今。改。て。ヤ。と。海。を。め。と。ど。う。と。前  
伍。や。と。じ。ひ。け。店。舗。で。ア。と。れ。と。修。れ。放。事。う。ゆ。て。當。う。ゆ。と。げ。と。金。で  
人。參。代。も。萬。代。も。海。が。ま。く。る。塔。も。立。祖。文。祖。母。と。貧。苦。遠。れ。ゆ。も。  
孫。め。う。金。が。被。て。れ。す。と。慈。と。慈。と。慈。と。慈。と。慈。と。慈。と。慈。と。慈。と。慈。と。

のけゆく。見まし。瘡の附に水をもみひに残す。はるか天の意也。  
歎詠の言葉に詠す。を難ひとことやあそよけと。りふといふもあら  
う。まよはせがむすき。を難ひとことやあそよけと。りふといふもあら  
う。おれに縁まれて。月火をもとめて。ぞよとさる。秋空がよみて。ひきの始も  
まよは細ほまらねにとて。金とれどい草へ。かど。あらば悔のくも無也。  
汝う心底と擇うるわうと。げと改文をよなげ。汝う善提の事も無く  
あら。ひゆすべ。必きびく車玉。うばる。宿す日書にらも。も。も。も。も。  
わゆる。あひと。も。あ。無。べ。と。も。も。れ。ば。私。も。も。く。く。ゆ。う。ば。わ。敵。ア  
あ。す。全。の。わ。い。け。方。み。ば。と。落。次。す。に。よ。ま。ち。く。と。種。は。モ。シ。く。ま。う。そ  
游。の。故。中。へ。天。金。代。か。り。と。移。次。月。懸。う。と。が。あ。も。立。堂。ら。里。も。出。  
う。れ。く。並。に。あ。勢。壓。往。て。を。ね。か。て。と。あ。ゆ。ま。づ。か。ー。そ。り。し。と  
胸。等。那。ー。と。ゆ。う。黄。蜀。

## (三)

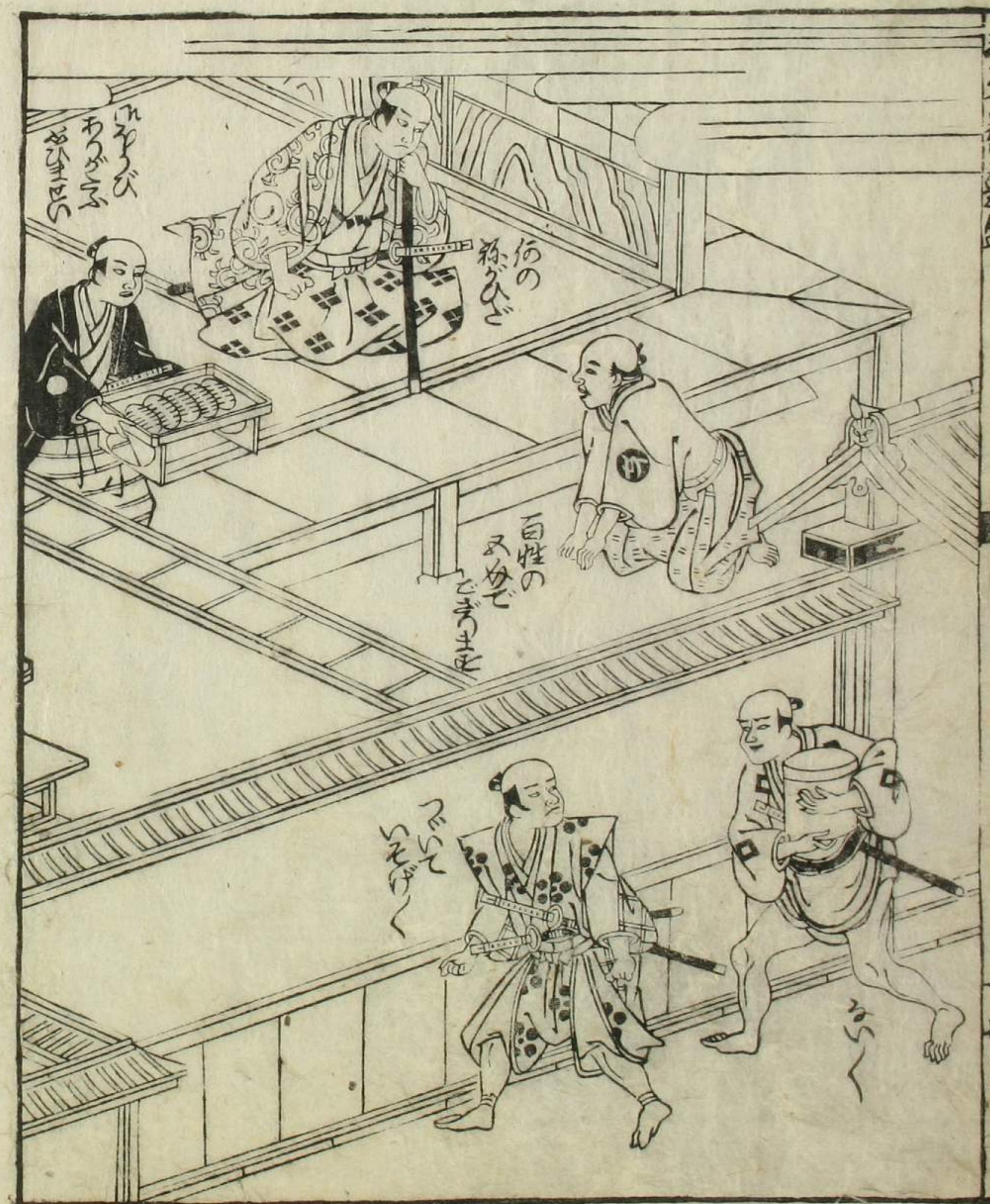
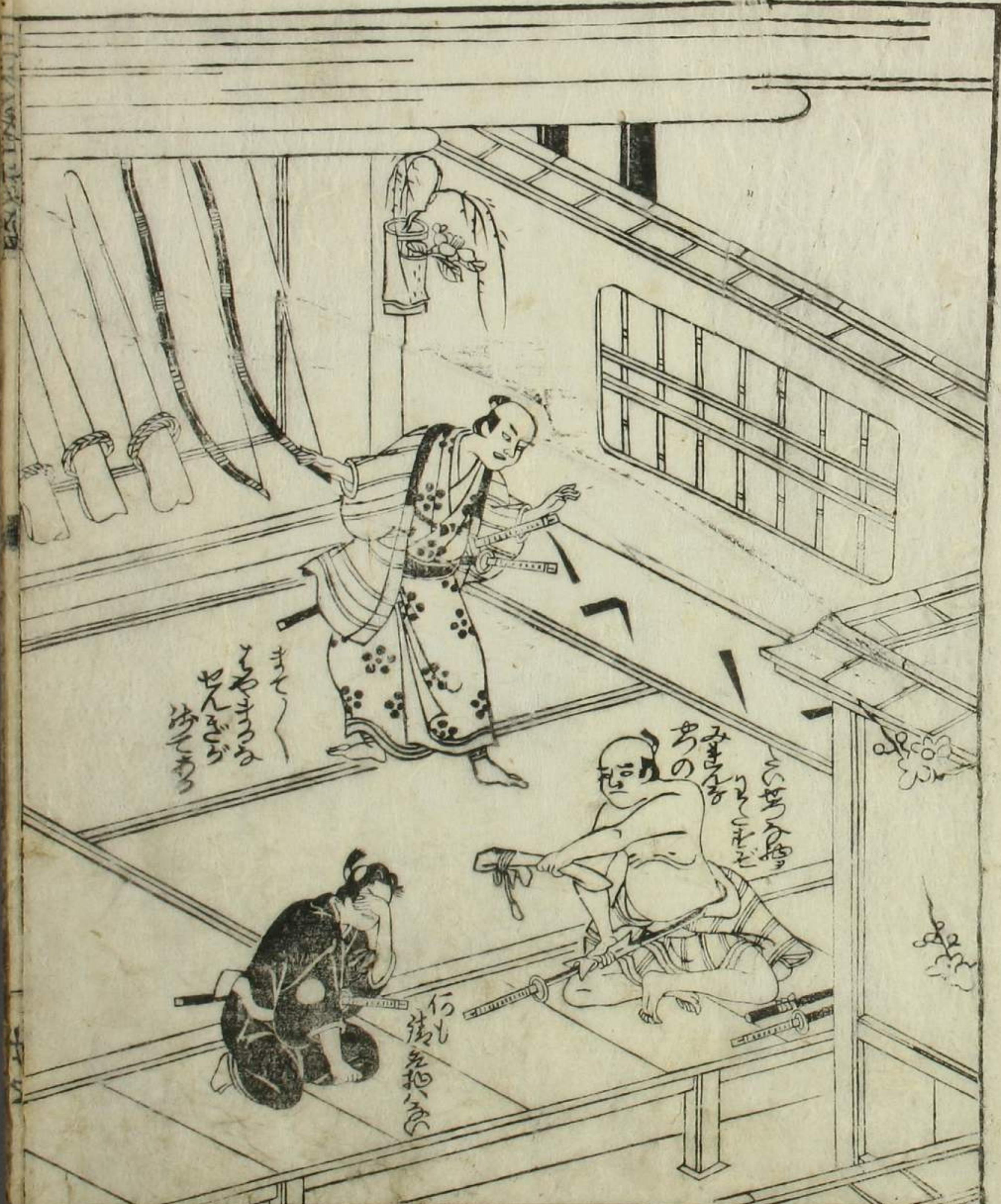
忠と不忠。歎嘆分と。おとづ。智累

既よ其骨を。考。而。て。乃。ほ。の。う。づ。金。浦。あ。い。と。骨。の。月。約。の。骨。  
奥。口。た。に。あ。く。と。施。ひ。者。あ。次。料。及。人。生。死。に。高。生。筆。と。五。深。へ。渡。  
後の敵。立。要。方。ハ。福。代。済。す。而。か。げ。ん。の。主。す。う。る。の。お。三。意。お。お。  
事。には。の。故。へ。と。う。腰。へ。を。き。と。い。う。切。因。所。う。ざ。れ。ハ。料。理。  
ひ。う。だ。町。人。ハ。富。業。と。つ。平。生。利。徳。と。積。う。る。身。私。あ。れ。は。行。う。  
有。徳。の。者。も。稍。す。き。ハ。私。ま。じ。き。る。自。私。と。取。つ。く。也。そ。  
奥。に。段。う。三。味。綠。の。あ。手。代。替。あ。代。替。あ。世。流。行。竹。を。作。の。う。  
も。ろ。に。を。接。う。も。あ。手。と。と。手。を。更。こ。そ。す。よ。り。れ。と。一。富。中の。  
お。富。竹。を。穿。竹。の。あ。流。う。る。く。な。れ。の。秘。密。の。高。曲。三。行。流。法。  
病。法。の。上。手。も。あ。め。代。こ。あ。て。穿。章。意。ハ。行。き。も。感。じ。て。あ。く。と  
や。す。て。あ。ぐ。和。の。え。う。バ。文。に。矣。ど。な。に。の。う。う。ま。た。の。富。度。れ。

神々と立角あ發さげ。かく而黙き淨すう二法の事一もへきだ。  
一向奥が見て、勝手立出。廣るの立てうそひていつかおれすま  
淨きうか能も清り徳也。暮月たニ事の月も出で。夜も勝能れバ。  
か内の人もゆる事て。極もゆる事と申して、席もゆる事  
穴井に窓はすら見れ。おもみ。食抗と枕みて、筆翁て席もゆ  
すみ。遅に東の丈うちあり。祕室の内と多く、御れの縁に就く人  
圍と立あ。壁の事まばす縁て居るるあに。廣るの下より事廢れの  
袖ぬめうと坐て、立かざりし。あは上て、下抜け。窗の縁のよう  
らきも下へ下り。かづりし。男をもう。計人ふにとうことぐら。  
わうめは、うかがきまき。ねき足して、そろそく室を乃  
そぞく立あ。うら。祕室アラモウ。ちれ曲毛。ごさん。ひづくと  
うじらげ。うら。かよひたまん。さうふくと。ひづくと。ひづくと

源氏の近運の所をかこと。うづきよりじ海へ向むる事の南洋盜を  
今、か底止てし神父とお子とつ車。一巡にのそひて不細と詔と  
あきればかよふとハ始ても量をきるもア。盜賊の名は防人車。先  
祖の不孝をいがまふ細をやうんりと車の源氏のれを福國を東政清が  
中福國改め政種とア。是れ神父とあがせ神父とあがせ神父  
元政清神父のうつみに生害けじとくとく平家のせと成。又と  
ちにあう。あせんくやれんとも車。は又伊豆入内院の堂を云  
あらす。近縁物が経て入ぬるのれにへぐりてハ御方の義れ執持と  
せ神父坐の方にざくらじものまほをあぐ。ハもして源氏の  
門内に加車ひく。す志の内義代とぞんわとふに傳す源氏乃  
主室も禁の菊は古色にてれ御内駕けうしてあ君の所方にとく。源  
氏の云達とつて次ねにせよと修れ。まとうく坐ぬれど。

今にあそぶ事の言も度まじ。店舗をあらじ松せうとすと  
後成貴紀。おきが家の重室とせんと推量せし。今自父の所と  
傳うかの菊がつむく形うすまきぬ絵吹屏。へなすへあらへられ。  
うてよを引く。屏が家の重室にせんとの御内室三室推量に  
遠ひ。おきが主室にするか底と見付。敷席もあく。壁こぢりんと。  
世作神父とゑし合。五ひにて奉ひた。おき源氏記念とて。ば菊と  
うち鈴と。源流と。おみがれ。平家に一時て。ば菊はおきの重  
室とするか底。方もうれを景ゆんとはせやげう。私室やノと  
多ひ。魔捨ひの右程ど。油が車。今幕に足されせや車をみて。  
ば菊は源氏のちねれ鈴と。おきと安休。さ難源也。お  
おてゆじい行車。強汝左底。父入室を備て。わく君乃意休





されく。破玉安殿の玉座破りて、とひ落す奉ひ乍り。こうあく破。  
玉城をき祐重殿の玉座破りけ。敷りらるにをも。坐す。主言ひ聲。  
寝ねては、一侍必人に情ふれを。又、祠に宵て、奉急せば。七生乞乃敵  
あや。祐重殿。乍り。くわよる。さくべくと刀拔玉て。引ぬ。どう体ア  
あや。祐重殿。乍り。くわよる。さくべくと刀拔玉て。引ぬ。どう体ア  
おして。お外にあら。祐重大よ感歎して。天晴大臣。金城控て。而繫  
功喜やと。おあたを。おひしき。死體と行はれ。被參へや  
その事と。に據ひて。旅の際へ。而神改ひ。正午に。尼之に。あは。  
祐重六件のあれゆきとひしけば。吳郡の經毛。経毛。食乃中。  
一覺の箇を。高し。是こそ。高禁と。高箇。多く改て。あつりて。に  
率れど。被參方に。若毛。被參。箇を。あんと。押叢て。足るに。  
美妙の店。あと。書く。全字にて。書祭と。少織ひす。その下ア

一サ四  
狩り。比方へ。後う。破來みまくに入ら。旅財を。刀を。車に。敷き。う。  
子細改繕つて。手許く。セヤ。と。手に。祐重を。分か。を。あづ。被參  
ともも。年も。あれば。人に。りそなも。も。あり。那。狩文敷り。う。年ど  
是。胞とも。立。舅。が。主の。ある。を。あて。年ナ。や。三。じ。を。あす。と。年  
派え。も。あくね。す。それと。ひ。よ。だ。年の。年教。を。う。年暖。見。東。う。と。  
祐重。御。と。する。年。ち。刀。抜。ね。て。腰に。う。と。ほき。あれ。被參。も。被參  
て。ひ。の。切。腰。拉。毛。だ。一。体。方。か。と。押。毬。れ。ば。年。ち。白。しげ。に。敷  
つ。で。す。き。ろ。い。今。祐重殿の。正。頭。ひ。大。衣。あ。う。正。箇。と。被參。に。降。多。す。  
如。え。う。と。差。く。石。も。を。奉。み。數。ひ。う。と。奉。も。玉。く。し。奉。品。今。被參  
切。て。正。頭。被參。う。一。世。解。被參。に。フ。を。あ。父。大。幼。幼。に。よ。く。公  
堅。り。年。至。邊。へ。被參。安。殿。も。舉。ひ。不。可。及。理。と。せ。入。室。か。一  
此。坐。害。づ。ふ。く。ヨ。ね。ア。を。あ。に。二。心。ア。一。年。の。ま。か。と。舞。ひ。香。

源氏の主とわらふとのをされらる。神父ハトナニミモリを簞に細め。  
はよ片時も多く平處立越。ゆう次ひてまし。片扇を拂れさん。  
ち拂ヤと玉ければ、さく拂也。け祐きも安世せり。拂ひか拂ひう。  
た廻城砂利よ。父平を車へお氣と拵夷し。へたるへ金縫ん珍乃  
車ハまきひまき。おがくと詔をかす。ひう頭に力波ぬ君ノ忠  
父ノ孝。ほしこべきや。すくバく巡守を尾より。言ふと車の音に先  
掛へうちきる。すな血色。あにむづび來めぐれ。經室の館へまことに  
有骨あらが。乳に入て。松の敷きの草履などあり。かづり十男  
妻の衣絆等をすがひ。いす綿袋をくわて。ばく角絶縁もぢとぞ隠

三之巻終

ひり行ゆる 一迎

少し下り

